

平成 30 年 6 月 8 日

松阪市議会

議 長 山 本 芳 敬 様

市民クラブ

代表 中島 清晴

## 行 政 視 察 報 告 書

市民クラブでは下記の日程で、行政視察を行いました。ここに報告書をまとめ提出いたします。

### 記

日程	平成 30 年 5 月 24 日(木)～5 月 25 日 (金)
視察先及び 視察事項	広島県尾道市 空き家対策について 岡山県姫路市観光交流局姫路城マラソン推進室 世界遺産姫路城マラソンについて
参加議員	中島 清晴、楠谷さゆり、橘 大介

## 尾道市行政視察

視察日 平成 30 年 5 月 24 日(木)

視察事 尾道市都市部建設課  
尾道市の空き家対策について

対 応

尾道市都市部建築課 主幹（空き家対策担当） 清玄 智文様  
尾道市都市部建築課 住宅政策係主事 堀 桂依 様

尾道市議会事務局

尾道市議会事務局 事務局長 佐藤 顕治様

建築課 〒722-8501 広島県尾道市久保 1 丁目 15-1 本庁舎 3 階  
住宅政策係（空き家相談） Tel : (0848) 38-9347



尾道市役所

## 1 尾道市の概要

### 尾道市の沿革

【市制施行 明治 31 年（1898 年）4 月 1 日】

### 歴史

自然の良港を持つ尾道は、平安時代の嘉応元年（1169 年）、備後大田荘（後、高野山領）公認の船津倉敷地、荘園米の積み出し港となって以来、対明貿易船や北前船、内海航行船の寄港地として、中世・近世を通じて繁栄をとげた。港町・商都としての発展は各時代に豪商を生み、多くの神社仏閣の寄進造営が行われる。

海を望む階段や坂道、路地越しに見える尾道水道、点在する寺院など、歴史を凝縮した景観に魅かれ、この地で「暗夜行路」の草稿を書いた志賀直哉、尾道の女学校に通った「放浪記」作者の林芙美子、この地をこよなく愛し描き続けた小林和作をはじめ、多くの文人墨客が足跡を刻んだ。また、近年では数々の映像作品の舞台となり映画のまちとしても有名。

明治 31 年（1898 年）、県内では広島市に次いで 2 番目に市制を施行し、周辺市町村との合併を経ながら市域を拡大して、緑豊かな北部丘陵地域から尾道水道周辺地域を経て独特の多島美を有する瀬戸内海地域に至る、多彩な資源を有するまちになる。

歴史と文化に溢れる島々を結び、全長約 70km の海の道をサイクリングで満喫できるしまなみ海道をはじめとする新たな魅力と歴史・伝統に育まれた資源を活かし、他にはない魅力的な価値を持つまちづくりを推進した。

瀬戸内のほぼ中央に位置し、山陽自動車道、瀬戸内しまなみ海道に加え、平成 27 年（2015 年）3 月に全線開通した中国やまなみ街道（中国横断自動車道尾道松江線）により、広域拠点としての機能は高まり、まさに「瀬戸内の十字路」としての発展が大いに期待される都市。

※平成 17 年（2005 年）3 月 28 日 御調郡御調町・向島町と合併

平成 18 年（2006 年）1 月 10 日 因島市・豊田郡瀬戸田町と合併

## 2 空き家対策の目的

近年、長期にわたり住む人がいなくなった空き家等が増加し、十分に手入れされないまま放置された結果、防災・衛生・景観等の面で周辺的生活環境に悪影響を及ぼし、大きな社会問題となった。

そうした空き家等に対する対策を進めるため、平成 27 年 5 月 26 日に、「空き家等対策の推進に関する特別措置法」が完全施行されました。

※「空き家等」とは、建築物またはこれに附属する工作物であって居住その他の使用がなされていないことが常態であるもの及びその敷地（立木その他の土地に定着する物を含む。）をいう。ただし、国または地方公共団体が所有し、または管理するものを除く。（法第 2 条第 1 項）

## 3 尾道市空き家等対策計画の経緯

近年、全国的に少子高齢化や人口減少が進み、中古住宅の流動性の低さや制度上の問題(税制・建築基準法)等も相まって、空き家等の数が年々増加している。

尾道市においても、人口減少が進展しており、平成 27 年 10 月 1 日現在の人口総数約 13.9 万人(平成 27 年国勢調査より)から、平成 37 年には約 12.7 万人(尾道市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン独自推計より)まで減少することが推計される。

また、平成 27 年度の尾道市空き家等実態調査では空き家等総数が 7,353 件となり、隣接する自治体と比較しても人口当たりの空き家等数は多くなっており、今後もさらに空家等が増加していくことが予測される。

増え続ける空き家等の中で、適切な管理が行われていないものについては、防災、衛生、景観等の面で地域に様々な問題を生じさせ、地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしていることから、地域住民の生命、身体又は財産を保護するとともに、その生活環境の保全を図り、あわせて空き家等の活用を促進するため、平成 27 年 5 月に「空き家等対策の推進に関する特別措置法」が完全施行された。

こうした背景を受け、空き家等に関する対策を総合的かつ計画的に推進するため、「尾道市空家等対策計画」を策定された。

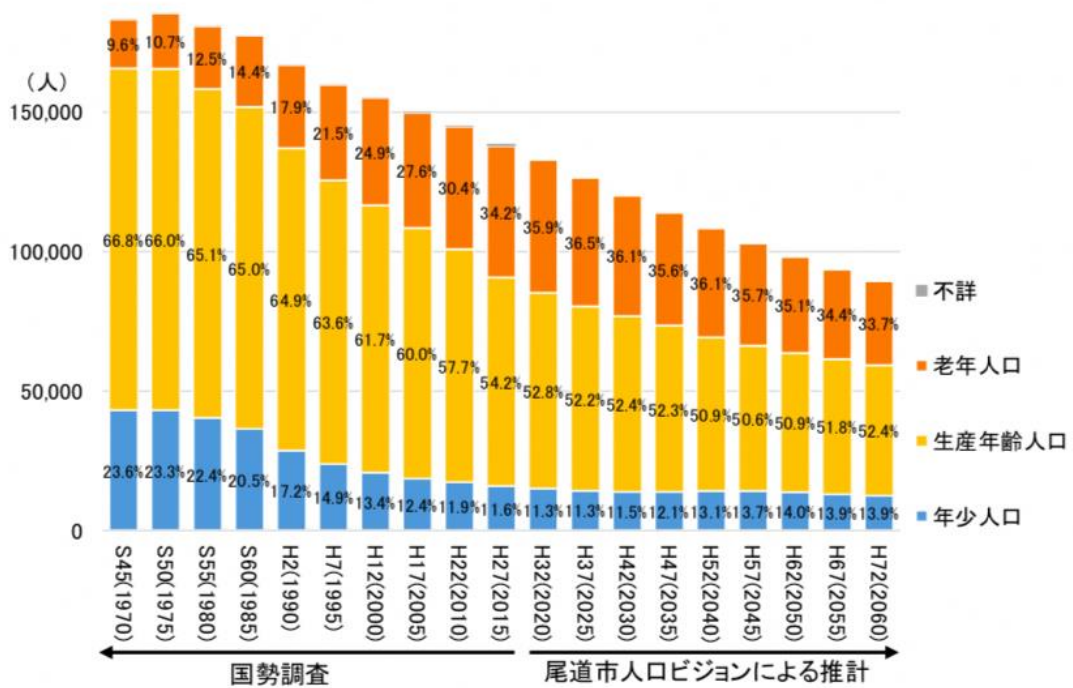
## 4. 空き家等の現状と課題

### 1. 尾道市の状況

#### (1) 住宅を取り巻く社会変化

#### 1 人口推移、推計

尾道市の人口は昭和 50 年(1975 年)をピークに減少に転じ、現在まで減少を続けています。減少傾向は今後も続くと見込まれ、尾道市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンによる独自推計では平成 72 年(2060 年)時点において人口総数 8.9 万人になると推計されています。



出典) 昭和45年～平成27年国勢調査、尾道市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

図1 年齢階層ごと人口総数の推移・推計

## 5.空き家等に関する課題

### (1)適切に管理されていない空き家等の解消

空き家等数は平成 27 年度空き家等実態調査では 7, 353 件で、そのうち老朽化が進み倒壊の危険性が高い空き家等は 1, 648 件となっています。立木等の繁茂や放置されたごみ等による周辺的生活環境へ影響を及ぼす空き家等も多く、この状態が続けば甚大な被害につながる恐れも考えられる。

人口は今後減少すると推計されており、高齢化の進展とともに高齢者の単身・夫婦のみの世帯が増加していることから、空き家等数は今後も増加すると考えられます。空き家等が存在すること自体に問題はありませんが、周辺住民の空き家等に対する不安を解消するためにも、適切に管理されていない空き家等の解消が課題であり、是正を進めるための対策が必要となる。

### (2)所有者等に対する意識の啓発

空き家等の所有者アンケート調査によると、空き家等になった理由としては、住んでいた人が死亡や施設入所等により不在となり、相続等の問題により次の居住者が決まらないことが空き家等が発生する要因として約 6 割を占めている。今後の意向については、利活用の意向がない、もしくは不明のままの回答が過半数を占め、空き家等所有者の当事者意識の低さが浮き彫りとなっている。

今後の活用方法が定まらない状態が続くと、空き家等の状態が長期化し、建物の劣化や敷地の荒廃が進んでいきます。建物の所有者等は、居住している時点から自分の財産を適切に管理し、将来にわたってどのように活用及び相続していくのか考えておくことが必要であり、そのために空き家等の管理者である意識を啓発するための取り組みが必要となる。

### (3)問題解決のための情報提供等の支援や適切な相談対応

空き家等の利活用について困っていることは、「リフォームをしないと使用できる状態ではない」「賃貸・売却する相手が見つからない」「荷物の処分に困っている」等の回答が多くなっており、それらの問題に対して必要な情報が不足していたり、相談先が不明であったりする状況が見られます。

所有者等による適正管理や利活用を促進するためには、所有者等や地域住民からの要望等に対応して、適切な情報等の提供や相談に対応できる窓口が必要です。また、専門的な相談については、関連分野の専門家の団体等と連携して対応できる体制を整備することが必要です。

## 6. 所感

今回の尾道市の空き家対策の視察を行い改めて松阪市と同じように空き家の特定や空き家の取壊し（執行）などに課題があると感じた。

しかし、特筆すべきは尾道市の映画や独特の景観などが空き家対策にとって優位に保つことができる。コモディティ化している空き家物件から差別化を図ることができると考えられる。

コモディティ化とは、【コモディティ化 (英: commodity)】市場に流通している商品がメーカー全体の個性を失い、消費者にとってはどこのメーカーの品を購入しても大差のない状態を表す。

尾道市に尾道三部作（『転校生』 『時をかける少女』 『さびしんぼう』）と新尾道三部作（『ふたり』 『あした』 『あの、夏の日』）などがある。その独特の景観から「映画の街」として有名な尾道は、数多くの映画やドラマ、アニメのロケ地として使われてきた。このような独特の景観などから他県他市にはない若者や外国人の移住者を実現している。

以上のように松阪市はコモディティ化している空き家物件からどう差別化していくかが求められる。それが空き家対策先進地との大きな違いと考える。

## 姫路市行政視察

視察日 平成 30 年 5 月 25 日(金)

視察事項 岡山県姫路市観光交流局姫路城マラソン推進室  
世界遺産姫路城マラソンについて

対 応 世界遺産姫路城マラソン実行委員会事務局

姫路市観光交流局姫路マラソン推進室 室長 山本 薫様

姫路市観光交流局姫路マラソン推進室 係長 平塚 正人様

姫路市議会事務局 事務局長 榎本 公彦様

姫路市議会事務局 調査課 係長 西本 雄太様

世界遺産姫路城マラソン実行委員会事務局 〒670-8501 姫路市安田 4 丁目 1 番地





## 1. 姫路市の概要

姫路市は、平成 8 年に中核都市に移行し、平成 18 年の合併で人口 53 万人余りに達して、播磨地域の中核都市として揺るぎない地位を占めている。また、平成 5 年に日本で初の世界文化遺産に指定された国宝・姫路城などの歴史的建造物や貴重な文化遺産も多い。

第 4 回目となった 2018 年世界遺産姫路城マラソンは、抽選によるマラソン出場者 8000 人の他、ファンランにも 4500 人以上が出場し、延べボランティア数は 4600 人と、活気に溢れた魅力ある大会となっており、姫路市への経済効果も大きいものである。

## 2. マラソン大会の目的

姫路城大天守保存修理事業の完成を記念して平成 26 年度から開催し、「歴史と文化の継承」をキーワードに、市民あげてサポートするマラソン大会であることが目的。大会コンセプトは、世界遺産姫路城の保存・継承を図ること、姫路の都市の魅力を発信すること、生涯スポーツの振興を図ること、市民ボランティア文化の醸成を図ること、そして地域経済の活性化を図ることである。

## 3. 第 1 回マラソン大会開催までの経緯

- (1) 昭和 62 年、市政 100 周年を記念したフルマラソン大会の開催が可能か検討委員会にて調査検討した結果、競技役員等の確保、主要道路の封鎖、警察・自衛隊の協力等の問題から実施困難との答申が出され、実現に至らなかった。
- (2) 平成 22 年、マラソン人口の増加や全国的なマラソンブーム、「観光とまちの活性化」の観点や、市民マラソン人口の大会開催についての要望が出されていたことから、庁内で検討委員会を立ち上げ、フルマラソンの開催について調査、検討することになった。
- (3) 姫路城大天守保存修理工事完成を記念して第 1 回大会を開催。（平成 27 年 2 月 22 日）

#### 4. 2018年大会の結果概要

2018年2月11日（日）に開催。マラソン定員7,000人に対して申し込み19,680人、抽選でエントリーは8,403人、出走は7,294人、完走者は7,033人で、完走率96.4%。制限時間は6時間であり、6時間制限で完走率96.4%は非常に高いと言える（普通は90%台前半）。

また、家族や友人を含めての来場者数は、前日のマラソン祭りに23,000人、当日のマラソン祭りには40,000人、沿道応援者は推定で79,000人。このうち姫路市内からの参加者は18.70%、県外からは45.74%、海外からも318人が参加した。

実行委員会による決算では、予算329,070,000円、収入305,744,618円、支出295,254,397円。経済波及効果は推計で11億円2千万円であった。

救護記録としては、救護所利用件数は191件（前年263件）、救急搬送件数4件（前年同数）、AED利用件数は1件であった（前年0件）。

#### 5. 今後の課題と展望

フルマラソン大会は近年一気に増加し、すでに過当競争の時代に入ったと言われている。今後、持続可能な大会としていくためには、財源の確保、およびランナーに選ばれる魅力ある大会の構築が必要であると考えられる。

この課題を解決するために、大会終了後、ランナー、ボランティア及び関係団体等から意見を聞き、改善を行い、次回の大会に活かしていくことにしている。

また、参加人数を増やして10,000人大大会を目指したいということであった。

## 6. 質疑応答

Q：最初、参考にしたマラソン大会はあるのか。

A：主に神戸マラソンを参考にした。

Q：招待選手の招聘に係る報償費等は。また、ゲストランナーに要望していることは何か。

A：150万円の予算計上している。ゲストランナーには、大会の盛り上げやランナーへの励ましをお願いしている。

Q：開催業務のプロポーザルを実施しているが、この理由は。

A：マラソンの開催業務についてのノウハウを持ち合わせている業者は極めて少ないため、業者選定にあたっては、競争入札よりプロポーザルの実施が適していると考えた。実際の応募は電通グループ1社で、実施本部会議にて電通グループに受託させることに決定。

Q：ボランティアの募集はどのようにしているのか。

A：3,000人程度の募集をしているが、併せて、連合自治会、スポーツ関係団体、民間企業、各種学校に依頼し、延約4,600人の協力が得られた。

Q：心肺停止などに対する危機管理体制はどのようにしているのか。

A：メディカル協議会を設置しており、その構成団体は、姫路医師会、ICLS西播磨、兵庫県看護協会西播磨支部、姫路消防局、姫路市陸上競技会である。また、医師、看護師、救急救命士等がボランティアで参加するメディカルランナーが36名、一般ランナーで救急時に救命をサポートするメディカルサポーターが78名走った。本年度はこのメディカルサポーターの一人が40km地点でAED協力した。

Q：真冬の大会であることの苦労は。

A：ランナーの身体がスタートまでの待ち時間に冷えてしまうこと、また、フィニッシュ後の更衣室までの動線が長いため、その間に身体が冷えるという意見がある。ボランティアが長時間寒い中での従事となること。天候によっては、道路の凍結で開催中止となる恐れもある。

Q：参加ランナーからの感想、地域からの苦情は。また、その対処法は。

A：参加ランナーからは、「起伏が少なく、自然豊かで走りやすかった」、道幅の狭い部分については、「狭くて追い越せない」などの意見が寄せられる一方で、「地元応援者との距離が近く熱烈な応援に感激した」、などの感想も多かった。地域住民の反応は、回数を重ねるたびに交通規制に対する理解も得られてきたが、引き続き、交通規制チラシ等によるPRに努め、理解を深めていく。また、沿道事業所には、事務局職員が年2回戸別訪問し、大会の開催、交通規制のお願いに行っている。

Q：参加ランナー用の、駐車場はあるのか。

A：マラソン終了後の疲労時における交通安全の観点から、自家用車で来るランナーは少ないと考え、駐車場は設定していない。

Q：前日受付は、宿泊客を増やすための戦略か。

A：代理出走を防ぐため、受付で本人確認をする。そのために、当日のスムーズな運用を目的に、前日受付としている。加えて、宿泊客を増やすことも目的の一つである。

Q：マラソン大会を観光促進に繋げる工夫は。

A：事前受付の配布物に姫路城の無料入場券1枚と観光パンフレットを同封している。また、姫路の魅力を発信するために、マラソン祭りを前日と当日に開催している。

Q：マラソン大会の効果・影響として、市民の医療費減少、整形外科の受診率増加などの調査はないのか。また、姫路市民のマラソン人口は増加したか。スポーツ店の売りに上げに影響はあるか。

A：医療費等についての調査は無い。マラソン人口についても調査は行っていないが、市内でランニングしている人をよく見かけるようになった。スポーツ店にランニンググッズが多くなった。スタッフウェアも市内スポーツ店で作っている。今後、目標タイム別のシューズでラインアップするなどの工夫があるとさらに良いと思われる。

## 7. 所感

2013年ボストン・マラソンで起きたテロ事件を受けて、ソフト・ターゲットとして多くの人が集まるマラソン大会は、テロ対策が必要な時代となった。姫路城マラソンにおいても、機動隊によるテロ突入対策バスの待機など、テロ対策を講じているという。

イベント来場者は沿道応援も含めて2日間で推定142,000人、ファンランを含めた当日の出走者は11,460人、ボランティア参加者は4,624人、さらに協賛・協力団体の数を見ても想像を絶する一大事業であることを再確認し、松阪市で2020年に開催予定であるマラソン大会実施に向けて、安全対策の万全な準備が本当にできるのか不安も隠せない。

一方で、成功に導けば松阪市の発信、ランナーによる走る楽しみや自己達成感の獲得に寄与でき、そのためには三重県や近隣市町の協力も得て、綿密な準備が不可欠であると思われる。

また、姫路市では、地元の協力や理解を得るために、事務局が沿道の事業所に年2回戸別訪問を実施しているなどの細やかな配慮をしており、このような点は大いに参考とすべきであろう。

最後に、制限時間を6時間にするか7時間とするのかによって、女性ランナーの参加者が大きく変わるという。制限時間一つ取っても交通規制の課題も含めて、判断の難しいところである。大会の趣旨を明白にし、松阪でのフルマラソンが長く愛される大会になれるよう願ってやまない。



姫路市役所